

## 青少年育成活動を通じて

真室川町青少年育成推進員 渡邊 一枝

私が真室川町の青少年育成推進員になってもうすぐ12年になります。今は楽しいことばかりを思い出します。その中でも特に感謝していることが二つあります。

一つ目は、中高校生と話をする機会がたくさんあったことです。「あいさつ運動」や「地元の中高生と語る会」。それと季節の活動の中での会話など。私が推進員になっていなければ、このような機会はなかったと思います。冬に真室川町のスノーフェスティバルと一緒に参加し、年齢を忘れ競い合ったことも楽しい思い出です。

二つ目は、たくさんの推進員の方々と知り合えたことです。真室川町の推進員になったばかりの頃は、どういう活動をするのか、私にできるのかと、不安でいっぱいでした。が、周りの推進員の方々のおかげで、すぐに不安は無くなりました。いつも楽しいムードメーカーの方。忙しい他のメンバーに代わり、いろいろな行事に出席して真室川町をアピールしてくれる方。いつもどっしりと優しく見守ってくれる方。縁の下の力持ちの女性メンバーの方々。そして私たち推進員の為にプライベートな時間を削って助けてくださる教育委員会の方々。たくさんの優しさに支えられ、これまで楽しく活動できました。私にとって人との「出会い」が何よりの宝物なんだと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。これから大切にしていこうと思います。

## 葉山塾を20年続けて

大蔵村青少年育成推進員 熊沢 健

「起きろー」。担当スタッフの呼ぶ声に目を覚ます。時計を見た。午前2時30分だ。これから、葉山の暁登山の出発だ。子どもたちの手には、懐中電灯が。そしてリュックには朝食と汗をふくタオルなどを入れて、眠い目をこすりながら集まってきた。

初めは大きな声を出しながら元気よく登りだしたのだが、時間がたつにつれて次第に口数も少なくなり、足取りも重くなっていく。「腹が痛い。」「頭が痛い。」など、子どもたちの体が、あちらこちらで悲鳴をあげ始めた。保健師さんや推進員のスタッフが子どもたちに寄り添う。先頭と連絡を取りながら、小休止する。

ブナ林を抜けると、空には満天の星が皆を歓迎してくれた。めったに見られない光景だ。素敵な光景に勇気と元気をもらって前進する。何とか隊列ができた。しばらく歩くと、東の空にうっすらと山の稜線が見えてきた。もうすぐ夜明けだ。子どもたちに日の出を見せてあげたい。スタッフの面々の想いは同じ。子どもたちを叱咤激励しながら、何とか葉山山頂からご来光を拜むことができた。

子どもたちの顔は、キラキラ輝いてとても眩しかった。やっぱり連れてきて良かった。そう思います。これは大蔵葉山塾の一コマですが、子どもたちは言います。「一番大変な事は山登り、一番良かった事も山登りだ。」と。

自然と感動を分かち合える子どもたちがいる限り、村の「宝」として、この事業は続けたい。



## 青少年育成推進員になって思うこと

鮭川村青少年育成推進員 矢口 清

最近のニュース番組を観ると、凄惨で陰湿な事件の報道が多く、心が痛むことが多いです。そのような時代背景もあり、子ども達に対しては「知らない人に話しかけられても近づかない、ついていけない、車には乗らない。」というような、指導方法が顕著になってきたように感じています。

私が若かった頃は、登下校中の子ども達に気軽に声をかけていました。大雨の時には、子どもたちが風邪を引かないように、車に乗せて家まで送ったこともありました。

現在では、登下校の手段はスクールバスとなっています。また、学校によっては不審者対策として、玄関を常時施錠している場合もあるそうです。

鮭川村青少年育成推進員会では、毎年新庄市内を巡回して、子どもたちへの巡回指導（見守り活動）を行っています。巡回の際、子ども達に話しかけると、みんな礼儀正しく対応してくれます。

ですが最近は、子どもからは警戒心を、周囲の大人からは視線を感じるが多くなりました。時代の流れとはいえ、少し寂しく感じます。

安全は何よりも最優先すべきものです。ですが、安全のために、子どもたちが他者と触れあう事で社会性を学ぶ機会が減ってしまったのではないのでしょうか。

大人が子どもを管理するだけでなく、その自主性を尊重し温かい眼で見守るような姿勢を、忘れてはならないように感じました。



## 子どもたちとの関わり大切さ

戸沢村青少年育成推進員 安食 信和

現在、子どもを取り巻く環境は厳しくなっております。勉強とスポ少の両立という忙しい日々を送っているように思いますが、そのような中で大人が如何に子どもたちと関わりを持っていくかが大きな課題ではないのでしょうか。

私たちの地域では四季を通して子どもたちとの交流ができるように様々な活動を行っています。「花植え・夏祭りの山車づくり・通学合宿・収穫祭・門松づくり・紙風船まつりと冬花火」など大人と子どもたちのふれあいの場を多く持つように心掛けて活動しています。楽しい時には一緒に笑い、美味しいものを食べた時は満足感を味わい、困っていれば手を差し伸べてあげられるような環境づくりが出来ればと考えています。

地域活動の中での大勢の大人との関わりが、将来社会に出た時のお互いを思いやり助け合いの気持ちにつながってほしい。そして一日一日を大切にしてほしい。

これからの人生、いろんな壁にぶち当たる事もあると思いますが、一人で抱え込まず、周りの人の助けを借りることも必要となります。今後も子どもたちとコミュニケーションを深めていきたいと考えています。

おわりに、私の地域の蔵岡ふるさと塾では、毎年3月に「紙風船まつりと冬花火」を開催しています。灯りを付けた巨大な紙風船が冬の夜空に舞い上がっていく幻想的な光景と冬花火の演出は人々を魅了します。皆様のご来場をお待ちしております。すばらしい感動を共有しましょう。